

2025年度(令和7年度) 自己評価・学校関係者評価 報告書

日本バプテスト春日原キリスト教会附属 恵星幼稚園

【自己評価】 ◆自己評価検討会議日：2026年2月19日(木)・2月26日(木)

I. 本園の教育目標(目指す子ども像)

◇神さまと人に愛されるこども ◇いきいきと生活するこども ◇仲間と育ちあうこども

II. 今年度重点的に取り組む目標・計画

◇発達と生活の連続性を大切に、1年を、子どもの実際の姿に照らしたゆるやかな区分で保育する。

◇カリキュラムは学年別で期ごとに出すが、将来的に発達の区分に合わせて作成できるよう考えていく。

◇教育要領に照らしつつ、あそびを中心とした教育活動が子どもの学びとなっているかに着目して、保育の振り返りをする。

III. 評価項目の達成及び取り組み状況 (評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	主体的な保育・キリスト教保育の充実	B	<ul style="list-style-type: none">・2024年度に改定されたキリスト教保育指針を今年度前半には職員会議時に読み合わせを始め、キリスト教保育がめざすものを共有し、日々の実践に活かせるよう努めた。・文科省が掲げる「主体的、対話的で深い学び」はキリスト教保育が長い歴史の中で目指しているものと相似していることを認識し、教師の具体的なことば選びや保育観に反映させている。
2	保護者への寄り添いと丁寧な対応	B	<ul style="list-style-type: none">・会議日以外の相談日が有効に利用されるようになり、個別に懇談したい保護者に担任自ら働きかけ、課題の共有や必要な支援につなげる努力をした。・時期尚早とならないよう園児の成長や保護者の心理的負担まで考慮して丁寧に面談をしているが、日常的にどの保護者とも十分にコミュニケーションが取れていたかは、保護者の主観によるところなので、継続して丁寧に取り組みたい。
3	2歳児保育(満3歳児)の創設	A	<ul style="list-style-type: none">・ひよこぐみが過ごしやすいように子育て支援の部屋を改良し、一人ひとりが安心できる場とすることができた。・園児数に対して十分な人数の保育者を配置し、この学年に必要な身辺自立の促しや、様々な体験を重ねることができた。・他学年との交流を年度後半に実施できたが、次年度からの縦割りクラスでも安心して過ごせるよう配慮していく必要を感じている。

IV. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・キリスト教保育月刊誌、改定保育指針の読み合わせや常勤教諭対象のバイブルクラスにより、保育観や保育の手立てを共有し、職員間でよく話し合いながら保育を進めることができた。・教会の方針で普及率の高い文語体の「主の祈り」に変わったが、子どもたちはすぐに覚え、教師が伝える聖書の内容をどのクラスも真剣に聴き、家族に伝えるほど深く受け取っている子もいた。教師自身も今後も礼拝を大切にしよう心掛け続ける。・車での送迎の保護者にはお迎えの際にできるだけその日の様子や頑張っていたことなどを伝えたり、面談の必要な保護者にはその機会を丁寧に作ってきたが、全員に十分だったかを省みていきたい。・保護者の気持ちを傾聴し子どもの成長を伝えるよう、教師一人一人が研鑽する。・ひよこぐみ(満3歳児)は少人数で良いスタートとなったので、次年度以降にこの経験を活かし、丁寧に2歳児保育を行っていきたい。 <p>※どの項目も努力できる点は残っており、園(教職員)としての総合的な評価はBとする。</p>

V. 今後取り組む課題

	課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
1	自園のテーマを具体的に決め、年間を通して継続的に取り組む	・「室内環境」「食育」などより具体的で実践に入れやすいテーマを決め、保育の中で実践する中で良かった点や見直していきたい点などを共有し、職員が研鑽を積む。
2	クラスや学年の壁を越え、園全体で保育の質の向上に努める	・どの子ども安心して過ごせるための空間を園全体で工夫する。 ・子ども同士の興味関心や交友関係の幅を広げるために、コーナー設定を充実させ、担当教師の配置も工夫し、子どもたちがより主体的にあそび込める環境づくりに努める。
3	2歳児保育の充実	・基本的に満3歳児から受け入れを行ってきた2歳児クラスを、2025年度の保育を活かしつつ、来年度からは、保育室も他のクラスと同じ1階にして低月齢まで受け入れる。 ・たてわりクラスとの交流も日常的に行いつつ、集団生活の中で一人ひとりが尊重され、家庭と連携しながら生活の自立による生きる力の基礎を育む。 ・2歳児が過ごしやすい動線や室内環境を整え、安全に豊かな保育ができるよう努める。

【学校関係者評価】 ◆学校関係者評価委員会開催日：2026年3月5日(木)

◎学校関係者評価委員会の評価

評価	所 感
A	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌や手遊びの充実、さくらんぼリズムによる体幹の強化など、子どもたちが主体的に取り組む中で自然に成長発達を促す保育内容は評価できる。 ・子どもも保護者も受容され、安心して通える園の雰囲気醸成・継続しているのは、根底にキリスト教の教えがあるからだと思われる。キリスト教保育の学びを絶やさず、卒園児も園を懐かしめるあたたかい保育方針を長く続けていってほしい。 ・保護者への寄り添いや丁寧な対応については、繊細な子どもの気持ちを保護者と共有しながら育てていく姿勢や、保護者への懇談の申し出、けいせいノート、電話でのフォローなどから、十分努力していると感じる。ドライブスルーなどで長く話せない方々は園庭開放や相談日を利用したりするなど、保護者側からの歩み寄りも期待して良いのではないと思われる。 ・2階での満3歳児クラスが少人数を丁寧に保育し、生活習慣を根気良く対応していたことが垣間見られ、充実した1年だったことが推し量られる。次年度からは1階保育室での2歳児クラスとなることで、より自然な形で縦割りクラスと交流できる環境に期待が持てる。

(評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)

学校関係者との聞き取りでの声 (アンケートについて)

C評価の人がいた Q11, Q12 については回答があるが、Q9 についての回答がないのは？

→どのような理由でその評価になったのかが記されていないなかったので、コメントは載せなかった。

今年度、2階をひよこの部屋として使用したため、ひかりクラブが週1回、2週に1回という頻度になった。それについての評価だったのかもしれない。そのことを加筆することを検討する。

Q11 への回答として、職員会議で個別の状況共有がなされているとのことだが、月に二度の職員会議で共有するだけでなく、もっと頻繁に行うことが求められているのではないか？

→職員会議での共有は非常勤教諭を含めてのことであり、常勤教諭はその日の保育後に共有している。ただそのすべてを保護者に伝えているわけではない。

保護者のコメントを読んで、全体的に良い意見が多かった。悪い意見はほとんど見受けられず、ほとんどの保護者が、みな同じ思い（高評価）であることを感じた。

この一年、賛美歌以外の歌（季節の歌やわらべうた）を子どもたちがよく口ずさんでおり、この時期に子どもたちが歌う一般的な歌も取り入れてもらっていることを、嬉しく思った。

(自己評価について)

評価する内容は公に決まっているのか？

→園独自だが、他の園のも参考に作成している。

保護者との関係についての自己評価がない。11、12 とのギャップを感じた

※④の年間計画表は保護者も閲覧できるのか？

→今は見るができない。年間のカリキュラムをアップすることも検討したが、年度途中で変わることが多いのでアップしていない。

要覧に「苦情窓口」とあるのが、表現がきつく感じる。

→春日市からの指導によるもの

保護者アンケートのアップは義務か？

→学校関係者評価はホームページなどへの掲載義務があるが、保護者アンケートは義務ではない。ただ幼稚園を探しておられる人にとって、園のことがよく理解できる資料だと思うのでアップしている。

園外保育が減ってきている理由は、温暖化とともに歩けない子が増えているというが、どういう意味？

→コロナ以降体力的にも低下しているし、危険なく集団として歩いていくことに危惧する場合もある。

園外保育を楽しみにしているので増やしてほしい。

歩く経験が足りないのを解消するには、どうしたらいいのか、具体的に啓蒙してほしい。

(学校関係者評価について)

クラスの学年の壁を超えて行き来できるはありがたいと思うが、小学校とのギャップがあるのではないかと感じる。

長時間の着座など小学校生活に備える園もある。恵星は自由でいいが、その分、小学校にあがったときに苦労するのではないか。ギャップが心配

→あとで厳しいところ(小学校)に行くから今から厳しくしておくという必要はない。十分に愛されて、自分を出せることが大事だと思う。

→コロナ前までは行き来自由だった。コロナ時に濃厚接触者の把握が必要でクラスの垣根をつくった。それが今もゆるく残っている。

先生にとっての負担（視野の広さが求められる）が大きくなるのでは？

→負担は大きくなる。いつでも…ではなく、その時間帯を設ける形を検討している（室内外ともに）。

さくらんぼリズムの講座を親も受けたこともあり、意識せずに子どもたちは取り組んでいるが、その目的（成長に必要な体の基礎・体幹）の向上に役立っていることを感じた。

ほしぐみとして頑張らなければならないときもあったが、やる気等に波があったとき、教師が心の動きに共有してくれた。同じ方向

ドライブであまりゆっくりと話す機会が少ないが、普段の木曜日の面談なども設けられており、状況を聞こうと思ったら聞ける環境が整えられている。保護者側の意識も必要だと思う。電話で連絡してくれたこともあり、そこまでしてくれるんだと感謝に思った。

今年のキリスト教のテーマは評価の項目に入らないのか？

バイブルカフェの在り方は、今も前の形もいいと思う。園長がコーヒーをついでくれるのは嬉しかった。企画ものにすると、参加者が増える。

2歳児保育を上でする特別感（良い意味でも悪い意味でも）あったと思うが、下に移ることで特別感がなくなると思う。

キリスト教保育という柱があっこそ、園の雰囲気が続いていると思う。